

もくじ Contents

- 3 年頭所感
- 4 特集 新春特別企画  
市政アドバイザー意見交換会
- 8 市政だより
  - 平成21年度決算の概要
  - がん検診・特定健診を津山すこやか・こどもセンターで実施
  - 高額医療・高額介護合算制度
  - 公立幼稚園預かり保育実施
  - 津山市生涯学習人材バンク
  - 所得税と個人住民税の申告  
ほか
- 16 ふおとほつとるぼ
  - 秋の津山城!! 2010ご当地グルメフェスティバル  
ほか
- 18 みんなのページ・ちゃい
  - お・た・よ・り
  - つやまっ子に贈る100冊の本
  - きらめく津山人
  - イラスト・絵手紙
  - 広報クイズ  
ほか
- 21 としょかん
- 22 こどもひろば
  - スケート助っ人事業
  - じどうかん
- 23 けんこう・そうだん
- 24 けいじぼん
- 30 くらし
- 32 Albumあの頃の津山

江戸時代に猛威を振るった伝染病の一つに天然痘があります。感染力が非常に強いため死亡率が高く、古くから不治の病として恐れられていました。

1796年、イギリスの医師ジェンナーは牛痘(牛の天然痘)を人体に接種してその後の感染を防ぐ牛痘種痘法を発見します。この方法はとても効果があり、蘭方医たちの間に知識が広まっています。しかし、肝心の痘苗の効果が日本まで運ぶ途中に失われてしまっています。何度か失敗を繰り返して、嘉永2年(1849)によく痘苗が長崎へ届けられました。

種痘の実施には、西洋医学に不信を抱く漢方医たちの反対もありましたが、わずか半年で各地に広められていきました。津山でも嘉永3年(1850)に藩医の野上玄雄らが種痘を始め、万延元年(1860)には二階町に種痘所が開かれます。

一方で、漢方医たちの抵抗が強かった江戸では、なかなか種痘が広まらずにいました。安政4年(1857)6月、津山藩医の箕作阮甫は蘭方医の伊東玄朴、戸塚静海らとともに大槻俊斎の屋敷に集まり、江戸にも種痘所を設立しようと相談します。

2カ月にわたる協議の結果、勘定奉行の川路聖謨に協力を依頼し、川路の名前で幕府に願書を提出することになりました。川路は、ロシア船が来航して阮甫が長崎に赴いた時の上司で、海外事情にも詳しく、阮甫をととても信頼していました。種痘所の設立には、この2

洋学博覧漫筆

～ 阮甫とお玉ヶ池種痘所 ～

人の信頼関係が大きな役割を果たしたと考えられます。

翌年1月に設立が認可されると、江戸や近郷の蘭方医が資金を出し合い、薬商人の援助を受けて、5月7日に神田お玉ヶ池にあった川路の拝領地に種痘所が開かれました。その時、阮甫は先頭に立って尽力したようで、設立人の名簿には筆頭に名を連ねています。

お玉ヶ池種痘所は開設してわずか半年後に大火で焼失しますが、場所を移して活動を続けました。万延元年には幕府の直営となり、西洋医学の学校兼病院として発展し、明治10年(1877)に東京大学医学部となります。阮甫は東大医学部の始まりにも深く関わっているのです。



▲種痘の様子(『種痘伝習録』(津山洋学資料館寄託))



▲お玉ヶ池種痘所跡に建つ碑